

センターの外部評価・提言委員会委員長を務められた佐野博敏先生



文部省は国立大学法人化に先だって、大学院重点化を強化する施策を打ち出しました。それに呼応して、大阪大学理学部では 1996 年に数学、物理学、化学、生物科学、高分子科学、宇宙地球科学の 6 専攻よりなる新しい理学研究科が発足しました。これにより教育・研究の中心が大学院理学研究科に移ることになりました。理学部では大学院重点化に際して、理学部附属マイクロ熱研究センターの位置づけが議論されました。熱力学という学問本来の特徴から、研究対象はあらゆる分野に及んでおり、多くの学問の基盤を支える基礎的な学問分野であることに鑑み、時限の枠を取り払って基幹講座化する案も検討されました。しかし汎用性ゆえに、専攻の枠を超えた学際的な附属施設として存在することの意義が唱えられました。マイクロ熱研究センターは 1999 年 3 月末に時限が到来するので、それに先立ち、それまでの研究・教育・社会的活動に対する外部評価を行い、時限到来後の将来構想に対する有効な提言を受けるため、1997 年に外部評価・提言委員会が組織されました。委員は国内の大学・科学振興財団・企業から 7 名、米国と英国から各 1 名で構成され、委員長は大妻学院理事・教授の佐野博敏先生(前・東京都立大学総長)が務められました。佐野先生には外部評価・提言委員会委員長として、多大なご尽力をいただきました。お陰さまで、文部省交渉では外部評価の結果が高く評価され、1999 年 4 月に理学研究科附属分子熱力学研究センターとして新たな 10 年の期限付きで文部省から設置が認められました。公務員定員削減の厳しい折柄にもかかわらず、助教授ポストと外国人客員教授ポストが純増で認められ、関係者一同心より感謝した次第です。2004 年に国立大学は法人化されましたが、2009 年に構造熱科学研究センター、2019 年に熱・エントロピー科学研究センターとして、研究活動が順調に継続されています。

専攻の枠を超えた学際的な附属施設として継続することの重要性に外部評価を与えてくださった佐野博敏先生が、誠に残念なことに、本年(2022 年)6 月 30 日に 94 歳で急逝なさいました。前日までパソコンでお仕事をなさっておられ、翌朝に静かに息を引き取られたそうで、お見事なご最期に感服いたしました。先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

(徂徠道夫)